

水文・水資源学会創立30周年を迎えるにあたり



第10期会長

安成 哲三

(総合地球環境学研
究所・所長)

創立30周年を迎えた水文・水資源学会に対し、まず心からお祝いを申し上げます。

ちょうど12年前、私は10期目の会長に指名され、2007年の学会誌に「21世紀における水文・水資源学会の役割」と題する巻頭言を書かせていただきました。その中で、21世紀は「水の世紀」であり、人間活動に伴う水需要はますます増大し、水資源問題が今世紀の人類の健全な発展にとって重要な鍵となる課題であることを指摘しました。特に急激な経済発展の著しいアジアは水災害と水資源の二つの問題が経済発展のボトルネックになっていることも指摘しましたが、今もこれらの問題の緊急度は高まっています。これらの問題を理解し、解決へ向けた研究を進めるためには、本学会が国際的にも認識度の高い、世界をリードする学会に発展していくべきことを強調しました。幸い、その一環として、私の会長任期中に、分野を横断した元気な若手研究者グループの努力と熱意により英文レター誌Hydrological Research Letters (HRL)を創刊することができ、現在ではかなり高いインパクトを維持するレター誌に成長しています。

学会とよばれる多くの組織が、ともすれば狭い分野の研究と権益を守ることに終始しているのに対し、水文・水資源学会は、人類にとっての水問題解決に向けて、常に分野にまたがる学際に加え、社会との連携・協働をめざす超学際を常に視野に入れている、大変すばらしい学会です。今後もこの精神の下、国内・国際での更なるご発展を期待しています。